

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671200117
法人名	ヤマト株式会社
事業所名	グループホーム ニングルの森平尾
所在地	〒611-0003 京都府宇治市平尾台1丁目3-8 (電話) 0774-33-1882

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年1月25日	評価確定日	平成22年2月23日

## 【情報提供票より】(平成22年1月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6万 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( )	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(12万円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	700 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または 1日あたり 1700円			

### (4) 利用者の概要(1月11日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.7歳	最低	72歳	最高	90歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人和松会六地藏総合病院 小林歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宇治市の南部、平尾台という高級住宅地にあり、和風の豪邸を使っているグループホームである。利用者の住み慣れた「家」であり、居室にも使い慣れた家具などを持ち込んでおり、机の上の雑誌、手紙の書きかけ、化粧台、衣装掛けにあるヒラヒラの洋服など、部屋から利用者の個性が見えてくる。毎月家族に「近況報告」のお手紙を郵送しており、家族に喜ばれるとともに、家族がホームの運営に協力する取り組みを生んでいる。母の日には大勢の家族の参加を得て、会食のあと利用者、家族、職員全員でフラダンスを楽しんでいる。家族から利用者へプレゼントを渡し、利用者からは家族に手紙を書いている。地域密着型サービス評価を受審するたびに、サービスの改善が進んでいる意欲的なホームである。今年はとくに利用者の表情が明るく、ゆったり過ごしており、職員は力をつけてきていることが感じられる。「押し花絵」の教室に通う人、天理教の新聞に目を通す人、昔よつくった手作りおやつを職員と一緒に作る人等、利用者への個別ケアに取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価については、高い評価をもらったと、職員は誇りをもち、宇治市の最初のグループホームとしてプライドをもって働こうと、変革が生まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価に関しては会議で説明し、管理者がまとめた自己評価について、職員から意見を聞いている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、元民生委員、元介護相談員、地域の幼稚園職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。ホームからは率直な情報を提供し、地域情報などを聞く機会となっている。「利用者や家族のコミュニケーションの機会を増やしては」との意見に対応している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	母の日やクリスマス会には家族に案内し、大勢が参加されている。その際に家族同士の交流も進んでおり、ホームと家族の関係は良好である。家族の意見として、行事はグループホームだけで開催してほしいとの声があり、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、隣にある公園で地域のボランティアが毎月開催する「公園サロン」に参加したり、小学生見守り隊に協力したり等、地域行事には利用者とともに参加している。小学校の運動会や文化祭を見に行ったりなどもしているが、地域は新興住宅地で、ホームと住民との親密な関係はなかなか難しいと感じている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自然・地域と統合した人間としての幸せな生活」を法人理念として掲げ、パンフレットに明記するとともに、ホーム内にも玄関に額に入れて掲げている。今年度は「個性豊かにその人らしく」を介護理念として設け、ホームに掲示している。運営推進会議で説明し、家族や地域住民に啓発している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年度は職員研修を充実させ、同時に、職員自身の価値観を振り返ることや、理念の理解を深めるための話しあいを繰り返し行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、隣にある公園で地域のボランティアが毎月開催する「公園サロン」に参加したり、小学生見守り隊に協力したり等、地域行事には利用者とともに参加している。小学校の運動会や文化祭を見に行ったりなどもしているが、地域は新興住宅地で、ホームと住民との親密な関係はなかなか難しいと感じている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に関しては会議で説明し、管理者がまとめた自己評価について職員からも意見を聞いている。前回の評価については、高い評価をもらったと、職員は誇りをもち、宇治市の最初のグループホームとしてプライドをもって働こうと、変革が生まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、元民生委員、元介護相談員、地域の幼稚園職員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。ホームからは率直な情報を提供し、地域情報などを聞く機会となっている。「利用者や家族のコミュニケーションの機会を増やしては」との意見に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	宇治市とは事業の相談をするとともに、宇治市の介護相談員を受け入れている。宇治市には地域密着型事業所の連絡会がなく、事業所同士の交流や研修の機会はない。地域住民に対して介護相談など、宇治市と協働しての事業はない。	○	グループホーム単独ではなく、宇治市と協働して、地域貢献するような事業、たとえば介護相談教室、認知症ケア教室、福祉用具相談会等を開催することが望まれる。
<b>4.理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が多いほうで、その際に情報交換している。毎月職員が「近況報告」を書き、郵送しており、家族からは喜ばれている。広報誌は年3回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母の日やクリスマス会には家族に案内し、大勢が参加されている。その際に家族同士の交流も進んでおり、ホームと家族の関係は良好である。家族の意見として、行事はグループホームだけで開催してほしいとの声があり、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は隣接して小規模多機能型居宅介護事業所の開設があり、法人内の職員異動が多く、退職も出ている。異動の際には重複勤務をし、利用者へのダメージを防ぎ、同時に引継ぎをしている。職員のシフトの希望には応じており、懇親会やボウリング大会なども開催し、働きやすい工夫をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員の研修に力を入れており、研修計画をたて、実施している。接遇、事故防止、身体拘束、認知症、パーソンセンタードケア、レクリエーション、救急、感染症等のテーマで内部研修を実施している。資格取得の意欲にも支援しており、資格手当を支給している。一人ひとりの職員の目標は、全員に自己評価と職員同士の評価を記入させ、上司と話し合い、目標を支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市内には地域密着型事業所連絡会はなく、株式会社設立のグループホーム同士で交流しているが、職員は他のグループホームを知らない。	○	職員が他のグループホームを見学したり、交換研修することは、職員自身のモチベーションアップにつながり、事業所としても大きな研修効果が期待できるので、交流をすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は入居してから、ここが自分の居場所だと納得するまでは様々な困難な過程をたどる。自分の使い慣れたもの、自分もってきたいものをもってくると、比較的早く馴染む。体験利用や週末ごとの帰宅、息子と一緒に田舎に帰る等々、利用者の馴染みのための種々の取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から様々なことを学んでいる。最大の学びは認知症についてである。認知症といっても感情は豊かに残っていること、尊厳を冒してはならないこと、その人を理解する必要があること等を学んでいる。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のアセスメントは身体面、精神面、生活歴、生活環境、生活習慣、好きなこと等々、東京センターシートを使って記録に残している。趣味なども詳細に把握され、ホームでの生活に生かされている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーがアセスメントをとり、介護計画を作成し、職員に見せている。利用者の生活を豊かにするように、身体介護にとどまらず、買い物、美容院の利用、書道や水墨画の教室に通う等、個別具体的な介護計画がたてられている。カンファレンス会議の記録等で、介護計画に職員の意見が反映されていることが確認できない。	○	介護計画はケアマネジャーだけでなく、職員それぞれが把握している情報を持ち寄って、チームとして検討しあい、作成することが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケース記録には毎日介護計画を明記し、時間軸にそって介護したかどうか、その結果、利用者の発言や表情、職員の気付きを書いている。モニタリングはケアマネジャーが毎月実施しており、介護計画の見直しが必要な場合は見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性と生かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当グループホームは認知症対応型デイサービスを併設しており、また昨年从小規模多機能型居宅介護事業所が隣接して開設されたので、グループホームの利用者にとっては利用者同士の交流ができ、閉じこもりを防ぐことになっている。理容店や美容院は近くの店に同行しており、また公民館や隣の公園の活用もあり、地域資源を利用している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医を大切に、受診には同行している。看護師が同行するので、情報交換は十分である。協力医の内科医や歯科医の往診もあり、検診もふくめて、利用者は安心である。宇治おうばく病院の認知症専門医に相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとして利用者の重度化やターミナルケアに関して指針を作成しており、それをもとに利用者や家族に意向を聴いている。ほとんどの家族はホームで看取ってほしいという希望である。看取りケアについてのマニュアルを作成し、職員研修も実施している。職員は不安がありながらも、前向きに対応している。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は2階の洋間は施錠ができるが、1階にある和室は施錠はできない。プライバシーが侵害されないよう、職員は見守っている。特に夜間は利用者は他人に入られたくないという希望があり、職員も見守りに注意している。トイレは中から施錠できる。トイレ誘導等の声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその日課は決まっているが、起床も就寝も利用者の自由である。外へ出かけたいという希望には支援しており、飲み物でも何が飲みたいか、希望を聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ケアマネジャーが栄養士なので、利用者の希望にも配慮しながら献立をたて、3日ごとに利用者と一緒に買い物に行っている。調理や後片付けには男性も含めて利用者が参加している。すきやきや水だし、養老鍋などの鍋料理も食卓にのぼる。高齢者のたべなれた和風献立である。食事中は利用者同士がいたわりあい、会話がある。外食にもよく出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回～4回支援しているが、土日以外は希望により毎日入ることはできる。夜間入浴も支援している。ゆず風呂やしょうぶ湯にも取り組んでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	玄関の掃除、植木鉢に水を遣る、花を生ける、行事の際にあいさつをするなどの役割を利用者は果たしている。実習生が来た時には利用者は全員自己紹介をしている。貼り絵、塗り絵、言葉遊び、ことわざあて、漢字あて、合唱、手遊び、ゲームなどを楽しんでいる。おはぎ作りやクッキーを焼いたり、パンを焼いたりもしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	すぐ横の公園や近くへの散歩は毎日のように実施している。日野神社や平安神宮への初詣、ドライブでの花見や紅葉狩りなど、季節のお出かけも実施している。利用者の希望により、通いなれた美容院や喫茶店、買い物などにお連れする個別外出にも取り組んでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の玄関口と裏口は施錠している。敷地から外部へは開放している。そのため、縁側から庭に下り、外へ出ることにはできる。また勝手口も施錠されていないので、そこから外へ出ることにはできる。	○	玄関口の施錠は必要なのか、職員で話し合い、他の方法がないのか、検討することが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関しては設備を整え、スプリンクラーの設置を予定している。夜間想定も含めて避難訓練をしている。食料や救急医薬品等の備蓄を完備し、備蓄については地域住民にも配慮して多量に準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の利用者の食事摂取量と水分摂取量は記録に残されている。ケアマネジャーが栄養士の資格をもち、献立のカロリー値や栄養バランスの点検をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風の豪邸を使っており、玄関先は大理石の敷石、庭には松ノ木、玄関土間を上がると日本画の額と大きな壺に花が生けられている。居間には大きなシャンデリアとどっしりした時計、壁際の整理棚に本やCDを入れている。ソファには大きなぬいぐるみがあり、窓は大きく、明るい。台所や食堂も落ち着いたつくりである。2階の廊下にも大きな壺に花を生けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は1階と2階に、洋間と和室がある。ベッドと洋服ダンスは備え付けられている。絨毯、ホームコタツ、タンス、衣装掛け、テレビ、机、椅子、時計など、利用者は使い慣れたものを持ち込んでいる。旅先の小さな飾り、ぬいぐるみ、自分や家族の写真等を飾っている。鏡と化粧台の前で自分でお化粧する利用者もいる。一輪挿しに花を生け、植木鉢の花に水をやっている利用者もいる。机の上にノートや『暮らしの手帖』を置き、手紙の書きかけの部屋など、それぞれ個性的である。		